

20108

長時間におよぶカテーテル治療での術者の暑さ対策

¹熊本労災病院

原 陽子¹、久保 夏子¹、鐵井 博昭¹、松村 敏幸¹

EVT・アブレーションなどのカテーテル治療では、時に4～5時間と長時間に及ぶことがある。術者は放射線被曝、血液暴露から身を守るため、プロテクター・ネックガード・ゴーグル・清潔ガウン・清潔手袋を着用しなければならない。当院の血管造影室では、冷房22～24度に設定し、室温24度、湿度60%に保っている。しかし、術者はプロテクターやガウンを着用することで体温が上昇し、暑さを訴えることが多々ある。冷房の温度を下げすぎると患者様や周囲のスタッフ（看護師や放射線技師）は寒くなりすぎることもあるため、温度調節を行えないのが現状である。治療が長時間になると”汗が出て気分が悪くなる。集中力がおちてくる。”との意見があがった。先行研究では、患者様の寒さ対策についての研究を行っている施設がある。当院でも以前、フリースの肩掛けを作成し患者様の寒さの軽減について研究を行っている。そこで今回、術者のプロテクター内の温度・湿度を調査し、術者もコメディカルスタッフも快適にカテーテル治療が行えるよう取り組み検討した。